

平成29年度第4回多摩市一般介護予防事業評価委員会

要点録

平成29年9月14日

日時：平成29年9月14日（木曜日） 15時00分～17時00分

会場：多摩市役所 特別会議室（本庁舎3階）

出席者：田中千秋副委員長 内田達二委員 白井弘三委員 池田由美子委員

中村和代委員 丹羽雅子委員

大淵修一オブザーバー

欠席者：明石のぞみ委員長

※委員長が欠席のため、副委員長がその職務を代理した

事務局：高齢支援課 田島介護予防推進係長 水谷主任 鈴木主任、佐藤主事

健康推進課 五味田主査

保険年金課 田中主任

介護予防による地域づくり推進員 桐林理学療法士

公開区分：公開

傍聴者：4名

協議内容

フレイル予防事業の検討について

（1）事務局からの説明

- ・フレイル予防事業のコンセプトは、市民が取り組み、生活に密着したもので、チェックを受けて太鼓判をもらうポジティブなもの
- ・事業の目的は、虚弱な高齢者を把握し、行動変容のきっかけづくりをすること
- ・事業の名称は「TAMAフレイル予防プロジェクト（TFPP）」とし、測定の最初に行なうチェックはファーストチェック、2回目に行なうものはセカンドチェックと呼ぶこととする。体験コーナーの名称は案をいただきたい。

※「TFPP」は「Tama Frailty Prevention Project」の略

- ・測定の対象者は、日常のちょっとしたことに不具合を感じている人で行動面から見ると

準備期から関心期にある方

- ・測定は介護予防リーダーなどの市民も行なうので、市民の活躍の場にもなる。
- ・チェックの流れとしては、最初にファーストチェックを受けそのうちの良い結果の3割（想定）にボランティア等の紹介をし、残り7割がセカンドチェックに進みさらにその結果で自分にあった活動につながるようにする。
- ・10月28日の国士館大学創立記念祭から測定会開始していくが、実施方法等は、年明けの評価委員会で再度検討し、3月17日のイベントに活かしていく。また、測定会は以上のような大規模会場の他に集会所のような小規模会場でも実施する予定。
- ・10月以降、医師会や歯科医会、地域包括支援センター、介護予防リーダー等への説明会を行なっていく。

（2）主な意見等

- ・チェックを記入する冊子のレイアウトとしては、ファーストチェックとセカンドチェック共通して、良い結果を右の列に記録するなどわかりやすい構成にするとよい。
- ・セカンドチェックで心の状態にチェックがつくような人は他の項目に該当していることが多い。複数項目に該当してる場合、包括支援センターがフォローするとよい。
- ・ファーストチェックで栄養に該当してもセカンドチェックで該当しないこともある。ファーストチェックで該当した場合、栄養に関するページへ誘導できるとよい。
- ・体験コーナーの名称としては、「元気なシニアが実践している生活体験コーナー」や各コーナーごとに「〇〇体験プロジェクト」となるとよい。
- ・フレイルの構成要素の一つに疲労感があるが、セカンドチェックの25問目「(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする」で読みこみ、ファーストチェックには入れないこととする。
- ・口腔の体験コーナーで吹き戻しを配布するが、楽しいだけで終わるのでなく、なぜ吹き戻しなのか理由を説明できるとよい。
- ・冊子の栄養に関するページでは、10食品群のチェックに野菜があげられているが、緑黄色野菜にした方がよい。
- ・冊子の口腔に関するページでは、噛めなくなるとフレイルになってしまう、というような内容にするとよい。
- ・尿失禁の予防に関しては、冊子の中で運動と同じカテゴリーで触れられるとよい。

次回以降の予定（平成29年度第5・6回多摩市一般介護予防事業評価委員会）について

第5回及び第6回委員会は、日程調整の上、平成30年1月以降に開催する予定。

開催日時・会場等については広報等を通じて周知を行なう。

— 了 —